

# ヘリコプターと雪崩防止設備の建設

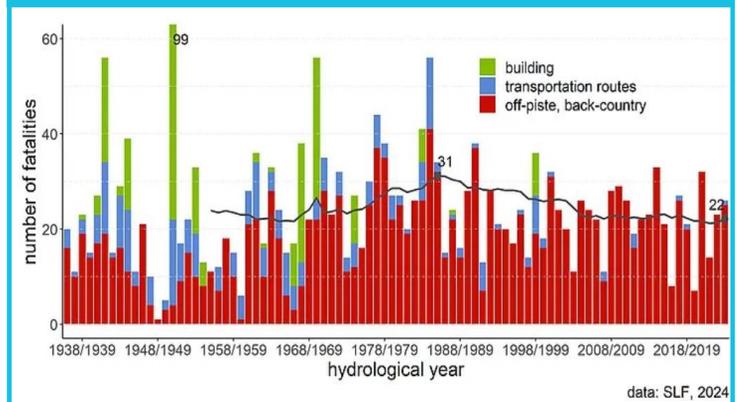
## 過去20年間・毎年100件以上発生するスイスの雪崩事故

毎月業界のトピックをご紹介する本書ですが、10月はスイスの雪崩防止設備の建設やメンテナンス作業に必要となるヘリコプターによる物資輸送等についてご紹介します。

### ■ スイス政府による1950年以降のインフラ投資

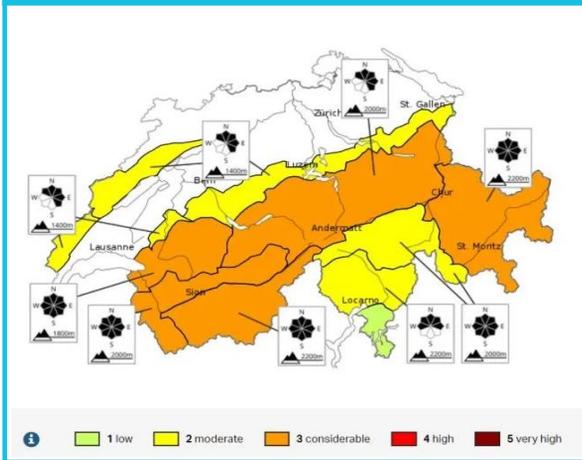
スイスでは1950-51年、雪崩により1,000棟以上の建物が崩壊し、死者数約100人以上に達する事故が発生しました。これを受けて、スイス政府は1951年以降、約10億スイスフラン（約1,700億円）を投資し、雪崩防止設備建設による対策を講じていますが、1965年のダム建設作業員88人の死亡事故、1970年のレッキンゲン村の軍兵舎30人の死亡事故、1999年のエヴォレーヌ町12人の死亡事故等、雪崩による事故は絶えません。スイス連邦雪・雪崩研究所（以下、「SLF」）によれば、インフラ整備された道路、鉄道等における年間犠牲者数は1940年代の15人から2010年に1人未満に減少した一方、過去20年間の雪崩事故発生件数は年間平均100件発生しております。その90%以上は人手の入らない雪面地域のオフピステやバックカントリーで発生している事から、引き続き雪崩防止設備の新設やメンテナンス等の対策を講じる必要が生じています。

スイスの雪崩による死亡者数推移（1936年以降）



(出所) WSL Institute for Snow and Avalanche Research SLF

### スイスアルプスの危険度レベル3 (雪崩による死亡者の約50%が該当)



(出所) WSL Institute for Snow and Avalanche Research SLF

### ■ ヘリコプターによる雪崩防止設備の建設

SLFはアルプスの大部分を雪崩による死亡者の半数を占める危険度3に指定しており、ヘリコプターは当該地域における雪崩防止設備の建設や整備、爆発物の投下による人為的な雪崩防止対策等の物資輸送において大きな役割を果たしています。これらの山岳地帯では高高度でも1トン級の物資運搬能力を発揮する多用途型単発ヘリコプターが活躍しております。同機種はスイスに限らず全世界で1,500機以上運航されており、ITCも既に北米と欧州で多くのリース実績を有しております。

ITCは「公共性」・「社会貢献性」の高いリース事業を法人・個人の投資家様にご提供して参ります。ご関心をお持ちいただけましたら、是非ご連絡ください。

注記)為替レート：1スイスフラン=173.05円(2024年10月8日仲値)換算。